

山村さんは「ウチナームーク」になっていたことが判明しました。琉球大学精神科入局時の出向先で知り合ったとのことでした（詳細は筆者まで問い合わせください）。

それから行きつけの寿司屋でごちそうになり、伊豆市のご自宅に泊めてもらいました（写真4）。（なんと）源泉かけ流し温泉の湯舟に気持ちよくつかり、お酒を酌み交わし、山村さんの「ええ……。ええ……。」の口癖に（懐かしく）相づちをうち、楽しいひと時を過ごしました。迷惑も省みずその場から、同級生の長井裕（現琉球大学産婦人科准教授）・山城啓（東京在住）・知念安紹（現琉球大学小児科准教授）（敬称略）へ電話をかけ、私たちが「このうえなく楽しく過ごしている！」ことを彼らにアピールしました。本当に忘れられない1泊2日の小旅行でした。山村さんと奥様にはこの場で紙面をかりて改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真4：山村さんのご自宅・玄関先で

時のたつのは早いもので卒後20年以上が経過し、私もついに50歳代に突入しました。50歳を「五十路（いそじ）」「中老（ちゅうろう）」と呼ぶそうです。また論語には「五十にして天命を知る」と記述されています。私の人生も曲がり角をまがりきってしまいました。私の天命は未だにわかりません。しかし今後は会いたい人に会って、美味しいものを食し、家族と共に楽しく人生を過ごしていければと思っています。今夜にも同窓生の先生方に「久しぶりに会いたい！」と迷惑な連絡がはいることとは思いますが、煙たがらずに相手してやってください。これからも末永くよろしくお願いします。

経験を糧に～人生に無駄はひとつも無い

新潟県はまぐみ小児療育センター 和田 有子



和田(田原)有子です。アラフィフの今でも大学で学生と間違われます。その様な格好で居るからです。

さて、そんな私、卒後は新潟大学小児科に入局し、4年目から8年間、3児の出産・育児で完全休業。その後は子育ての傍ら医師と大学講師をし、今日まで夫の転勤等で引越18回、1都5県に居住、現在は新潟市在住です。2009年からは大学講師中心でしたが、妹の看取り（2011年、享年37歳）もあって人生の残り時間の使い方を考えるようになり、立ち遅れている新潟県の小児リハの改善をと一念発起。今春より、その中心である新潟県はまぐみ小児療育センターに勤務しつつ、県北の病院（半径30km圏内で唯一小児科のある総合病院）の小児科に「発達外来」を開設。県北には今まで発達専門の医師が居なかった為か、開設半年の今も、新患が湧くようにやって来ます。その他に大学講師、リハ医と5つの職場を掛け持ちの日々です。

主に診ている発達障害児（自閉症スペクトラムやADHDなど）は「親や担任も含めて患者さん」であり、本人への働きかけより、環境調整に時間

